

# 「生活習慣病(肥満、高血圧、糖尿病および高脂血症)の一次予防を目指して」

(「生活習慣病易罹患性遺伝子解析」プロジェクト)

生活習慣病研究部 松本 明世

ヒト遺伝子(ゲノム)に刷り込まれた全ての情報が明らかにされた今日、これら情報を活用するさまざまな領域の研究が、「ポストゲノムプロジェクト」として進められています。

いわゆる「太りやすい体質」など耳慣れたものですが、この「体質」の基本的な部分は、「遺伝的な素因」として個々人が親から受け継いだものです。生活習慣病は、複数の遺伝的な因子と栄養や運動などの生活習慣因子(環境因子)の相互作用により発症することが知られています。1980年代から、これら生活習慣病の原因となる遺伝素因を明らかにするための研究が進められ、これまでに、肥満、高血圧、糖尿病および高脂血症の発症に関わると考えられる遺伝素因(遺伝子マーカー)が報告されてきました。しかし、これまでの研究では、食習慣や運動習慣などの影響が考慮されていないために、現在利用できる遺伝子マーカーは殆どありません。

私たちのプロジェクトでは、肥満、高血圧、糖尿病、高脂血症の発症に強い関わりを持つ食習慣や運動習慣などの生活習慣因子を加え、各種遺伝子型と身体状況との相互作用を詳しく調べることによって、こ

れら生活習慣病の発症予測に応用できる遺伝子マーカーを確立することを第一の目標にしています。同時に、生活習慣がこれら疾患の発症にどの程度影響しているかを詳しく調べていきます。これら生活習慣病の予知が可能となれば、このような遺伝素因をもつ人たち一人ひとりを対象とした「21世紀型の食事摂取推奨量」など、いわゆる「テーラーメイドの栄養・運動指導」として、積極的な生活習慣病の予防(一次予防)に大きく貢献できると考えています。

このプロジェクト課題を達成するため、研究所内では基礎研究部門と調査・疫学研究部門とが連携し、さらには国立保健医療科学院、東京大学医学部、東京医科歯科大学など多くの研究施設の研究者の連携によって進められています。

この研究テーマは、「厚生労働省の科学技術政策」に「ヒトゲノム情報を活用した生活習慣病に係る予防・治療等に関する研究」として位置づけられ、健康増進法を踏まえた地域保健の場における生活習慣病の予防的治療の実現、すなわち「新公衆衛生戦略」を推進するものとして、私たちの研究所の重要な課題の1つとなっています。

